

子どもたちへのまなざし

(17)

ルンルンのゆりかご

松井 とし



うさぎのルンルンは、四か月の間に相次いで三度のお産をした。

一度目は、地盤沈下のために職員室の下にできた穴の中で、子どもを産んでいた。私は産室を用意していたのだが、一向に産む気配がないので、何かの間違いだったと諦めていた。ところが、一か月後にかわいい子うさぎがちよろちよと穴から出てきたのだった。

しばらくすると、またルンルンはしばしば穴の中へ入って行く。布切れをくわえて運んだりするようすがどうもおかしい。雄のピーターと小屋を別にしていたので、まさか二度目のお産が始まろうとしているとは思わなかった。それから一か月たったある日、横穴からそっとのぞくと奥の穴の入り口あたりに何かが見える。目を凝らすとそれは、耳をピンと立て、後ろ足で立っている白い小さなうさぎの姿だった。暗い中に赤い目が光り、まるで蠟燭がともっているかのように思えた。やっぱり生まれていた。

その後半月ぐらいうると、ルンルンとピーターと一緒に外へ出てしまう事件が起こった。園庭のルンルンとピーターは仲よく寄りそっている。「もしかしたら……二度あることは三度ある」、そんな思いが頭をよぎった。

「小屋の中に産室を作ったら、ルンルンは受け入れてくれるだろうか」。私は入口だけに小さな穴を開けたダンボールの箱を小屋の隅に固定し、細く裂いたベーパータオルや藁をおいた。早速ルンルンは中に入った。「今度はここで赤ちゃん産んでね。どう、気に入った？」等と話しかけると、まんざらでもなさそうだった。

産室を作ってから数日後、思ったとおりルンルンにお産の兆候がみえた。私は何とか産室の中を見てみたいと思った。

ある日、ルンルンが散歩に出たすぎに、小屋の中にそっと鏡を入れた。すると、そこにはボールのようなものが映し出された。よく見るとそれはルンルンが胸の毛をぬいて作った「ゆりかご」だった。白い毛とベーパータオルが絡み合って見事にボール状に作られている。驚き、感激もしたが、見てはいけないルンルンの秘密を見てしまったような後ろめたさを感じ、あわてて鏡を引き出した。

「この中に小さな赤ちゃんがいる」、畏敬の念を感じたルンルンの「ゆりかご」だった。

(元幼稚園教諭)